

テーマ No. 16

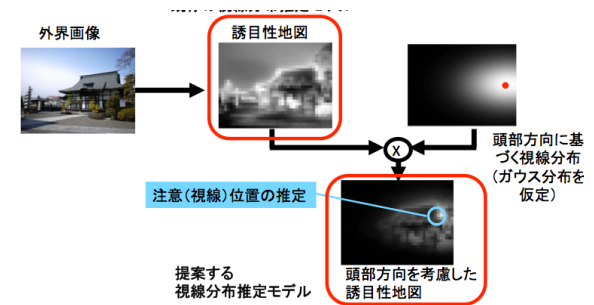
視覚情報処理の理解に基づく映像表現の研究

塩入・栗木・曾研究室

概要：現在のコミュニケーションにおいて視覚情報の重要性はますます増大しています。本研究課題では、人間の脳視覚野の知見やさまざまな錯視などを利用して、映像表現のあり方を検討し、視線計測などによる評価を試みます。具体的には、以下のリストからテーマを選択し、研究室スタッフの指導のもとに研究計画を作成、実施します。

1. 視線位置の予測

注意のモデルによる視線位置予測を行い、よりよいコンテンツの作成方法を検討。



2. 人工現実感の中の自己認識

自身の姿をカメラでとりその映像をヘッドマウントディスプレイで観察すると、自分を外なら見ている感覚になる。その環境を利用した新しい映像表現技術の可能性を調べる。

3. その他

画像処理による錯視図形作成顔認識の研究、また参加者が特に興味を持っているテーマで、我々の研究室の包含する研究分野と整合性が高い場合には相談の上採用する可能性もある。

